

1-1-1 文字式

部分的にのみ異なる、たくさんの文をまとめて扱いたいとき、たとえば、

「宇田雄一は善人だ」	「宇田雄一は悪人だ」	「宇田雄一は嘘つきだ」
「宇田雄一は正直者だ」	「宇田雄一は男だ」	「宇田雄一は女だ」
「宇田雄一はヒトだ」	「宇田雄一は犬だ」	「宇田雄一は哺乳類だ」
「宇田雄一はハ虫類だ」	「宇田雄一は動物だ」	「宇田雄一は植物だ」
「宇田雄一は生き物だ」	「宇田雄一は建物だ」	「宇田雄一は乗り物だ」
「宇田雄一は危険だ」	「宇田雄一は安全だ」	「宇田雄一は気体だ」
「宇田雄一は固体だ」	「宇田雄一は液体だ」	「宇田雄一は地名だ」
「宇田雄一は人名だ」	「宇田雄一は実数だ」	「宇田雄一は整数だ」
「宇田雄一は自然数だ」	「宇田雄一は命題だ」	「宇田雄一は真だ」

こういう文を扱う場合、予め空欄を含む未完成の文「宇田雄一は□だ」を作つておくと便利だ。こうした上で、空欄に何を書き込むかを記録なり伝達なりすれば、共通部分の繰り返しから来る無駄を省くことが出来る。さて、

「宇田雄一は□だ」を φ とか $\varphi(\square)$ と略記し、「宇田雄一は液体だ」という文を p (液体) と略記などすると便利だ。空欄が一つだけならこれでも良いが、空欄が複数箇所あり、それらの内のいくつかには常に共通の語を書き入れたい、という場合には、空欄に x などの文字で名前を付けておくと良い。たとえば、

「太郎君は店で x と y を購入して帰宅し、 x に y をかけて食べました」
 こういう文を作つて、これを $q(x, y)$ と略記すれば、「太郎君は店で刺身と醤油を購入して帰宅し、刺身に醤油をかけて食べました」という文は $q(\text{刺身}, \text{醤油})$ として、

「太郎君は店でレタスとマヨネーズを購入して帰宅し、
 レタスにマヨネーズをかけて食べました」

という文は $q(\text{レタス}, \text{マヨネーズ})$ として、

「太郎君は店で 3 と 6 を購入して帰宅し、3 に 6 をかけて食べました」
 という文は $q(3, 6)$ として記録・伝達できる。

これは、空欄に名前を付けておかなければ出来ないことだ。当然のことながら、